

# ドイツ語から見たイディッシュ語の特徴（1）

—— イディッシュ語に対するスラブ語の影響 ——

上 田 和 夫\*

## はじめに

東欧ユダヤ人の日常語であるイディッシュ語は周知の通り、中世ドイツ語方言に端を発するが、11 世紀末以降ユダヤ人の東方への移住に伴ってスラブ語、特にポーランド語の影響を受けて大きく変形し、彼ら独特のヘブライ文字の使用と相まって、ドイツ語とは別の言語に発展した。イディッシュ語は言語接触の典型的例であると言える。

本稿ではこのイディッシュ語の特徴をドイツ語と比較（但し歴史的考察は最小限に留める）、対照して明らかにし、その理由を探りたいと考える。とは言え、筆者のスラブ語の知識は極めて貧弱であるのでこの試みも決して十分なものではなく、ごく大雑把なものであることをお断りしておきたい。まず全体の概要を示す。

---

\* 福岡大学人文学部教授

## 目次

### I 文字・音声・音韻論

1. イディッシュ語の文字とその転写（音）
2. イディッシュ語の音声と音韻
3. イディッシュ語・ドイツ語の単語の音韻対応
4. 子音結合
5. 語中音消失
6. 語尾音消失

### II 形態論

1. 冠詞（1.1 定冠詞／1.2 不定冠詞／1.3 否定冠詞）
2. 名詞：（2.1 名詞の格変化／2.2 所有の表し方／2.3 複数形のタイプ／2.4 名詞の性／2.5 性のゆれ／2.6 接尾辞なしの名詞／2.7 縮小詞）
3. 形容詞：（3.1 形容詞の短語尾・長語尾形／3.2 形容詞の比較・最高級）
4. 数詞：
5. 代名詞：（5.1 人称代名詞／5.2 所有代名詞／5.3 指示代名詞／5.4 関係代名詞（定関係代名詞・不定関係代名詞・関係副詞）／5.5 不定代名詞／5.6 疑問代名詞・疑問詞）
6. 前置詞
7. 動詞：（7.1 不定詞 I／7.2 母音混和／7.3 命令形／7.4 現在分詞・過去分詞の作り方／7.5 母音交替／7.6 時制／7.7 アスペクト／7.8 再帰動詞／7.9 複合動詞／7.10 迂言動詞／7.11 非人称動詞／7.12 話法の助動詞／7.13 不定詞 II）
8. 副詞：（8.1 形容詞を転用したもの／8.2 本来の副詞／8.3 名詞の副詞的用法）／8.4 多重否定）

9. 受動態：(9.1 動作受動／9.2 状態受動)
10. 間接話法と仮定法：(10.1 間接話法／10.2 仮定法)

### Ⅲ 統語論

1. 語順
2. 枠構造：(2.1 命令文／2.2 現在完了／2.3 分離動詞／2.4 未来)
3. 時制の一致
4. 接続詞：(4.1 並列の接続詞／4.2 副詞的接続詞／4.3 従属接続詞)

### Ⅳ 語彙論

1. 同形異義語
2. 疑似ドイツ語系単語
3. 古語
4. ダイッチュメリッシュ
5. イディッシュ語の構成要素 (5.1 ヘブライ語要素／5.2 スラブ語要素／5.3  
ロマンス語要素／5.4 その他)
6. 融合単語；
  - 6.1 [ヘブライ語＋ドイツ語]
  - 6.2 [ドイツ語＋ヘブライ語]
  - 6.3 [スラブ語＋ヘブライ語]
  - 6.4 [ヘブライ語＋スラブ語]
  - 6.5 [スラブ語＋ドイツ語]
  - 6.6 [ドイツ語＋ヘブライ語＋ドイツ語]
  - 6.7 [ドイツ語＋ヘブライ語＋スラブ語]
  - 6.8 [ドイツ語＋スラブ語]
  - 6.9 [ドイツ語＋スラブ語＋ドイツ語]
7. ドイツ語の中のイディッシュ語単語

参考文献

I 文字・音声・音韻論

1. イディッシュ語の文字とその転写（音）

イディッシュ語はゲルマン語に属するにも拘わらず、英語やオランダ語など

表 1

文字	呼び方	音価	文字	呼び方	音価
א	shtumer alef	—	נ	nun	n
אָ	pasakh alef	a	ן*	lange nun	n
אָױ	komets alef	o	ס	samekh	s
ב	beyz	b	ע	ayen	e
בֿ	veyz	v	פ	pey	p
ג	giml	g	פּ	fey	f
ד	daled	d	ף*	lange fey	f
ה	hey	h	צ	tsadik	ts
ו	vov	v	ץ*	lange tsadik	ts
ז	zayen	z	ק	kuf	k
ח	khes	kh[x]	ר	reysh	r
ט	tes	t	ש	shin	[ʃ]
י	yud	i, y	שׂ	sin	s
כ	kof	k	ת	tof	t
כּ	khof	kh[x]	תּ	sof	s
ך*	lange khof	kh[x]			
ל	lamed	l	װ	tsvey vovn	v
מ	mem	m	זש	zayen shin	zh[ʒ]
ם*	shlos-mem	m	טש	tet-shin	tsh[tʃ]

[註] \*は単語の末尾に使う形。

とは違ってヘブライ文字を用いて右から左へと書く特異な言語である。しかし、ヘブライ文字は本来ヘブライ語を写すための文字であるから、ヘブライ語のアルファベットをそのままイディッシュ語に用いるわけにはいかない。そこでイディッシュ語に合うように、文字に若干の改変を施している。表1ではイディッシュ語のアルファベットと、ローマ字転写の場合の音価を示す。

## 2. イディッシュ語の音声と音韻

イディッシュ語で用いられる音は以下の通り。

母音：5 個

表 2 (母音表)

	中央			
	前	中		後
	非円唇母音		円唇母音	
高	<i>i</i>			<i>u</i>
中	<i>e</i>		<i>o</i>	
低		<i>a</i>		

この外、複母音として ai (ay), ei (ey), および oi (oy) がある。

子音：23 (24) 個

表 3 (子音表)

			唇音		舌音				声門音
			両唇音	唇歯音	歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	中舌音	
噪音	閉鎖音	無声 有声	<i>p</i> <i>b</i>		<i>t</i> <i>d</i>			<i>k</i> <i>g</i>	
	破擦音	無声 有声			<i>c</i> <i>dz</i>	<i>č</i> <i>dž</i>			
	摩擦音	無声 有声		<i>f</i> <i>v</i>	<i>s</i> <i>z</i>	<i>š</i> <i>ž</i>	<i>j</i>	<i>x</i>	<i>h</i>
主音節	鼻音		<i>m</i>		<i>n</i>				
	側音				<i>l</i>				
	半母音				<i>r</i>			( <i>r</i> )	

č=tʃ、š=ʃ、c=ts、ž=zh=ʒ

### 3. イディッシュ語・ドイツ語の単語の音韻対応

イディッシュ語は中世ドイツ語から派生した言語である。J. ヴァイスベルクはこのことを踏まえ、イディッシュ語の母音と子音に関して次のようにまとめている。

母音

- i) イディッシュ語の母音では長母音と短母音の区別が無くなった。
- ii) ウムラウト (Umlaut) は大抵の場合実現した。lokh-lekher。
- iii) 副音節母音 (Nebensilbenvokalismus) の弱化が著しい。
- iv) 母音の数は大幅に減った。

子音

- i) ドイツ語に見られる氣息 (Behauchung) が無くなった。
- ii) ドイツ語に見られる末尾音硬化 (Anslautverhärtung) が無くなった。  
つまり有声破裂音の b, d, g は末尾にあっても p, t, k という無声音にはならない。

以上のことに留意して筆者はドイツ語とイディッシュ語の単語（但し双方とも標準語とする）の間に次のような音韻対応を考えた（但し例外も多い）。左がイ（ディッシュ）語の単語、右がド（イツ）語の単語。母音の長短については上で述べた通りだが、筆者には同調できない部分もあるので、今は一応短音、長音の両方の性質を持っているものとして扱う。

## 母音

1) イ語頭の e, e:	- ド語頭の ε, ε:	意味
<u>e</u> ndern	<u>ä</u> ndern	変える
<u>e</u> nlekh	<u>ä</u> hnlich	似た
<u>k</u> ez	<u>K</u> äse	チーズ
2) イ語頭の o, o:	- ド語頭の a, a:	
<u>f</u> oter	<u>V</u> ater	父
<u>g</u> ob	<u>G</u> abe	贈り物
<u>m</u> os	<u>M</u> aß	尺度
<u>n</u> oz	<u>N</u> ase	鼻
<u>r</u> otn	<u>r</u> aten	忠告する
3) イ語頭の e, e:	- ド語頭の œ, ø:	
<u>e</u> fenen	<u>ö</u> ffnen	開ける
<u>k</u> erper	<u>K</u> örper	身体
<u>l</u> efl	<u>L</u> öffel	スプーン
<u>m</u> ebl	<u>M</u> öbel	家具
4) イ語中の i, i:	- ド語中の y, y:	
<u>d</u> in	<u>d</u> ünn	薄い
<u>f</u> iln	<u>f</u> üllen	満たす
<u>g</u> rin	<u>g</u> rün	緑の
<u>h</u> itn	<u>h</u> üten	護る
<u>t</u> ir	<u>T</u> ür	ドア

## 二重母音

1-1) イ語中の oi - ド語中の au

<u>boym</u>	<u>Baum</u>	木
<u>gedoyer</u>	<u>Dauer</u>	持続
<u>ho<u>yp</u>t</u>	<u>Haupt</u>	頭
<u>ko<u>ym</u></u>	<u>ka<u>um</u></u>	ほとんどーない
<u>o<u>y</u>g</u>	<u>A<u>u</u>ge</u>	目

1-2) イ語中の oi - ド語中の o:

<u>bo<u>ygn</u></u>	<u>Bo<u>g</u>en</u>	弓
<u>ho<u>yz</u></u>	<u>H<u>o</u>se</u>	ズボン
<u>lo<u>y</u>b</u>	<u>Lo<u>b</u></u>	称賛
<u>ro<u>yz</u></u>	<u>Ro<u>s</u>e</u>	バラ

2-1) イ語中の ei - ド語中の φ:

<u>fle<u>y</u>t</u>	<u>Fl<u>ö</u>te</u>	フルート
<u>be<u>yz</u></u>	<u>b<u>ö</u>se</u>	怒った
<u>le<u>yzn</u></u>	<u>l<u>ö</u>sen</u>	解く

2-2) イ語中の ei - ド語中の e:

<u>ge<u>y</u>en</u>	<u>ge<u>e</u>hen</u>	行く
<u>le<u>y</u>enen</u>	<u>le<u>e</u>sen</u>	読む
<u>le<u>y</u>gn</u>	<u>le<u>e</u>gen</u>	置く
<u>le<u>y</u>m</u>	<u>Le<u>e</u>hm</u>	粘土



## 3) イ語中の ei - ド語中の ai

be <u>ys</u> n	beißen	噛む
kle <u>yn</u>	klein	小さい
le <u>y</u> ter	Leiter	梯子
he <u>ys</u> n	heißen	命ずる

## 子音

## 1) イ語末・音節末の b - ド語末・音節末の p

ge <u>lb</u>	gelb	黄色い
lay <u>b</u>	Leib	身体
libli <u>kh</u>	lieblich	愛らしい

## 2) イ語末・音節末の d - ド語末・音節末の t

fer <u>d</u>	Pferd	馬
kindhay <u>t</u>	Kindheit	子供時代
shver <u>d</u>	Schwert	剣
vild <u>d</u>	wild	粗野な
zam <u>d</u>	Sand	砂

## 3) イ語末・音節末の t - ド語末・音節末の t

han <u>t</u>	Hand	手
hun <u>t</u>	Hund	犬
vin <u>t</u>	Wind	風
van <u>t</u>	Wand	壁

4) イ語末・音節末の g - ド語末・音節末の k

<u>ba</u> rg	B <u>er</u> g	山
kl <u>ug</u>	kl <u>u</u> g	賢い
to <u>g</u> likht	Tag <u>l</u> icht	日の光

5) イ語頭の f - ド語頭の pf

<u>f</u> ayfn	<u>p</u> feifen	笛を吹く
<u>f</u> ayl	<u>P</u> feil	矢
<u>f</u> efer	<u>P</u> feffer	コショウ
<u>f</u> erd	<u>P</u> ferd	馬
<u>f</u> legn	<u>p</u> flegen	—するのを常とする

6) イ語中・語末の p - ド語中・語末の pf

e <u>p</u> l	A <u>p</u> fel	リンゴ
kn <u>o</u> p	Kn <u>o</u> pf	ボタン
ko <u>p</u>	Ko <u>p</u> f	頭
to <u>p</u>	Top <u>f</u>	鍋

#### 4. 子音結合

イディッシュ語にはヘブライ語やスラブ語の単語が流入している結果、ドイツ語にはない音、あるいは音の結合が見られる。

- 1) dl- (dlonye 手の平)
- 2) dn- (dno 底)
- 3) hl- (hlibe)
- 4) xn- (xhnife へつらい)  
(xhniken 嘆く)

- 5) xm- (khmare 雲)  
(khmarne 暗い)
- 6) žm- (zhmuren 閉じる)
- 7) xr- (khreblye ダム)  
(khcube ストープ)  
(khcube 塊)
- 8) xs- (khshides ハシディズム)  
(khshime 署名)
- 9) xš- (khshad 疑い)  
(khshives 重み)
- 10) sk- (skirde 納屋)
- 11) skr- (skripen ぎいぎい音を立てる)
- 12) sl- (slup マスト)  
(sline 唾液)
- 13) sm- (smakh 基礎)  
(smetene クリーム)
- 14) sp- (sparzhe アスパラガス)  
(spitse スポーク)  
(sport スポーツ)
- 15) st- (stade 群れ)  
(stam あっさりとした)  
(stav 川)
- 16) str- (strashen ーしそうである)  
(strashidle かかし)  
(stremen あぶみ)
- 17) cd- (tsdodim 側)

(tsdoke お布施)

18) dž (blondzhen 迷う)

他にも dl-, dn- などの子音結合がある。なおここでの記述にあたっては Steffen Kogh: Das Ostjiddische im Sprachkontakt p.28-29 を参照した。

## 5. 語中音消失 (Synkope)

イディッシュ語の中のドイツ語起源の単語では、かつて中世ドイツ語単語の語中にあった -e は弱化し、消失したものも多い。カッコ内は中世ドイツ語単語。

イ語		ド語	
glantsn	-	glänzen	輝く (glanstern)
gring	-	gering	易しい (geringe)
himl	-	Himmel	空 (himel)
mitl	-	Mittel	手段 (mittel)
morgn	-	Morgen	朝 (morgen)
shodn	-	Schaden	被害 (schade)
zogn	-	sagen	言う (sagen)

## 6. 語尾音消失 (Apokope)

イディッシュ語の中のドイツ語起源の単語では、かつて中世ドイツ語単語の末尾にあった -e の音が弱化し消えてしまったものが多い。カッコ内は中世ドイツ語単語。

イ語		ド語	
blum	-	Blume (bluome)	花
grenets	-	Grenze (greniz)	境界
hits	-	Hitze (hitze)	熱

noz	-	Nase (nase)	鼻
shul	-	Schule (schul)	シナゴーク、学校
trep	-	Treppe (treppe)	階段
tsung	-	Zunge (zunge)	舌
vesh	-	Wäsche (vesche)	洗濯物
jud	-	Jude (jude)	ユダヤ人

〔註〕 但し-eを保っている例外も多い。

bine	-	Biene	蜜蜂
familye	-	Familie	家族
gemeynde	-	Gemeinde	共同体 (gemeinde)
oyfgabe	-	Aufgabe	課題
poyze	-	Pause	休止
sekunde	-	Sekunde	秒

## II 形態論

### 1. 冠詞

イディッシュ語の冠詞には定冠詞と不定冠詞がある。定冠詞の変化は次の通りである。

	男性	女性	中性	複数
主格	der	di	dos	di
属格	dem	der	dem	di
与格	dem	der	dem	di
対格	dem	di	dos	di

〔註〕 属格の使用は稀だが一応ロックウッドに従って掲げておく。

不定冠詞はすべての性、数、格を通じて a、母音あるいは複母音の前では an となる。

a bukh 本      an oyg 目  
a froy 女性    an ey 卵

この他に否定冠詞 keyn (=kein) があるが、これについては後で詳述する。

## 2. 名詞

### 2.1 名詞の格変化

イディッシュ語の名詞はすべて文法上の性（男性、女性、中性）を持ち、また格（主格、属格、与格、対格）に応じて変化する。なお属格は使われることは稀である。語尾はつかない場合が圧倒的に多い。

i) 男性：der mentsh 男      ii) 女性：di mame おかあさん

主格	der mentsh	主格	di mame
属格	dem mentshns	属格	der mame
与格	dem mentsh	与格	der mame
対格	dem mentsh	対格	di mame

iii) 中性：dos harts 心臓

主格	dos harts
属格	—
与格	dem harts
対格	dos harts

### 2.2 所有の表し方

先に述べたように、イディッシュ語は、ドイツ語に見られるような属格はほとんど使われないので、das Buch des Vaters のように、修飾されるべき単語

の後ろに修飾する名詞の属格をおくやり方は使わず、普通は前置詞の fun（英語の of, ドイツ語の von に相当する）を用いる。

イ：a lid fun friling

ド：ein Lied des Frühlings, ein Lied vom Frühling)

日：春の歌

イ：di kinder fun klas

ド：die Kinder der Klasse, die Kinder von der Klasse)

日：クラスの子供たち

イ：der firer fun di soldatn

ド：der Führer der Soldaten, die Kinder von den Soldaten)

日：兵士の指導者

いわゆるザクセン二格、つまり修飾される名詞の前に修飾する名詞をおくやり方もしばしば見かける。

イ：der muters kol

ド：die Stimme der Mutter

日：母の声

イ：dem tatns zilberner zeyger

ド：eine silberne Uhr des Vaters

日：父の銀時計

イ：der tokhters harts

ド：das Herz der Tochter

日：娘の心

### 2.3 名詞の複数形のタイプ

ドイツ語の複数形のタイプには同尾式、E 式、ER 式、N 式、および S 式（外来語）に分けられるが、イディッシュ語では、それらの語尾（但し語尾は同じでもドイツ語の複数形の形とは一致しない場合が多い）のほかに、ヘブライ語の複数語尾が持ち込まれている。

#### 1) -(e)n 型

イディッシュ語	ドイツ語	
ek - ekn	Ecke - Ecken	隅
feder - federn	Feder - Federn	羽
froy - froyen	Frau - Frauen	女性
gelt - geltn	Geld - Gelder	お金
kraft - kraftn	Kraft - Kräfte	力
shul - shuln	Schule - Schulen	シナゴーク、学校
tish - tishn	Tisch- Tische	テーブル
veg - vegn	Weg - Wege	道
tsimer - tsimern	Zimmer - Zimmer	部屋
yor - yorn	Jahr - Jahre	年

#### 2) -er 型

bukh - bikher	Buch - Bücher	本
glok - gleker	Glocke - Glocken	鐘
harts - hertser	Herz - Herzen	心臓
kind - kinder	Kind - Kinder	子供



land - lender	Land - Länder	国
lokh - lekher	Loch - Löcher	穴
noz - nezer	Nase - Nasen	鼻
ton - tener	Ton - Töne	調子
vagon - vagoner	Wagen - Wagen	車
vald - velder	Wald - Wälder	森

## 3) 無語尾型

fish - fish	Fisch- Fische	魚
fraynd - fraynd	Freund - Freunde	友人
fus - fis	Fuß - Füße	脚
shvester - shvester	Schwester - Schwester	姉妹
tokhter - tekhter	Tochter - Töchter	娘
tog - teg	Tag - Tage	日
zun - zin	Sohn - Söhne	息子

## 4) -im 型

この語尾を取るものの多くはヘブライ語の男性名詞である。複数形になるとアクセントも後ろから二番目の位置に移動する。

bokher - bokhrim	若者
dokter - doktoyrim	医者
kaptsn - kaptsonim	一文無し
keysor - keysorim	皇帝
khaver - khaveyrim	友人
limed - limudim	学問
nar -naronim	馬鹿

poyer - poyerim	農夫
seyfer - sform	宗教的な本
sheker - shkorim	嘘

5) -s 型 この型のうちの多くはヘブライ語の女性名詞である。

loshn - leshoynes		言語
tayne - taynes		主張
tsatske - tsatskes		おもちゃ
foter - foters	Vater - Väter	父
geshikhte - geshikhtes	Geschichte - Geschichten	歴史、物語
tsap - tsapkes		雄のヤギ
vayle - vayles	Weile - Weiles	暫時
volkn - volkns	Wolke - Wolken	雲
vunder - vunders	Wunder - Wunder	奇跡

6) -ekh 型

hengl - henglekh		房
meydl - meydlekh		少女
ekl - eklekh	Ekel	吐き気
yingl - yinglekh	Junge	若者
zelnerl - zelnerlekh		兵士

## 2.4 名詞の性

外見的には同じ、あるいはよく似ていても、イディッシュ語の名詞の性とドイツ語の名詞の性はしばしば異なる場合がある。なおイディッシュ語の北東方言では中性を持たない。従って男性か女性しかない。

イディッシュ語	ドイツ語	意味
der bavustzayn	das Bewußtsein	意識
der bukh	das Buch	本
der epizod	die Episode	エピソード
der etap	die Etappe	段階
der gefil	das Gefühl	感情
der restoran	das Restaurant	レストラン
der shtim	die Stimme	声
der teater	das Theater	演劇
der tol	das Tal	谷
der tsil	das Ziel	目標
der tsimer	das Zimmer	部屋
der universitet	die Universität	大学
di bet	das Bett	ベッド
di dinst	der Dinst	奉仕
di hor	das Haar	髪の毛
di problem	das Problem	問題
di shif	das Schiff	船
di shtroy	das Stroh	藁

## 2.5 名詞の性のゆれ

これは性のゆれというより地域的差異なのかもしれない。

イディッシュ語	ドイツ語	意味
der, dos horn	das Horn	角
der, dos meser	das Messer	ナイフ
di, dos lid	das Lied	歌

di, dos mel	das Mehl	粉
di, dos por	das Paar	対
di, der yak	der Jacke	ジャケット
dos, di kroyt	die Kraut	キャベツ
der, di kartofl	die Kartoffel	ジャガイモ
der, di teyl	der Teil	部分

## 2.6 接尾辞なしの名詞

イディッシュ語ではドイツ語と同じ起源の単語でも接尾辞を失ってしまった結果、文法上の性も変わってしまう場合がよくある。

イディッシュ語	ドイツ語	意味
der araynfir	die Einführung	導入
der batayt	die Bedeutung	意味
der bading	die Bedingung	条件
der banits	die Benutzung	利用
der opmakh	die Abmachung	取り決め
der fardarb	die Verderbtheit	消化
di fintster	die Finsternis	闇
dos gezunt	die Gesundheit	健康
di krenk	die Krankheit	病気
der glaykhgilt	die Gleichgültigkeit	無関心

## 2.7 縮小詞

ドイツ語で縮小詞と言えば-chen や-lein が思い起こされるが、その数は少ない。それに対してイディッシュ語では-nyu, -shi, -l, -le, -ke 等の接尾辞をつけて小さいことや可愛らしさ、あるいは軽蔑等をあらわす縮小詞が非常に多

い。オーストリアでもまた縮小詞がよく使われる。スラブ語においてもまた縮小詞は頻繁に見られる現象である。このことから、イディッシュ語の縮小詞はオーストリア方言、スラブ語両方の影響を受けているのかも知れない。

## i) -ke

mamashke	ママ
modelke	モデル
soldatske	兵士

## ii) -l

この縮小詞が殊の外よく使われるようである。すべての名詞につけられる。

goyrl	運命	bruderl	兄弟
hintergesl	裏通り	restrandl	レストラン
hitl	帽子	shvesterl	姉妹
yingl	若者	tekhterl	娘
mentshl	人間	telerl	皿
papirl	紙		

## iii) -le

brivele	手紙
bombele	爆弾
minutkele	秒
shlisele	鍵

## iv) -shi

bobeshi	祖母
mameshi	母
tateshi	父

v) -nyu

mamenyu 母  
tatenyu 父  
zunenyu 息子

vi) -tshe

Avromtshe アヴロム  
Itshe イサク

vii) -tsh

partatsh 無器用人  
yungatsh 若者

### 3. 形容詞

ドイツ語の形容詞の用法には二つある。すなわち述語的用法と付加語的用法である。付加語的用法とは形容詞を名詞の前に置いて名詞を規定する用法である。その際形容詞は性、数、格に応じて語尾変化する。これについてはドイツ語もイディッシュ語もポーランド語（定語的用法と言う）も基本的に変わらない。ここではそれぞれの言語の述語的用法について見てみたい。

述語的用法とはドイツ語の場合、sein, bleiben, werden などの動詞と用いられ、主語の性質や状態を述べる用法である。その際ドイツ語の形容詞は主語の性、数、格にかかわらず語尾変化する。

一方イディッシュ語の述語的用法ではどうかというと、形容詞は主語の性、数に合わせて語尾変化する。しかしその際名詞は表には現れない。現れるのは不定冠詞と語尾変化した形容詞のみである。これはスラブ語形容詞の述語的用法とよく似ている。このように見ていくと、イディッシュ語はスラブ語の影響を受けているのではないかと推察される。

イ：Der fortog iz a kiler.

ド：Der Vormittag ist kühl.

ド：Es ist ein kühler Vormittag.

ポーランド語: Ranek jest chlodny.

日本語: 寒い午前だ。

イディッシュ語: Yener vinterdiker frimorgn iz geven a kalter, ober a zuniker.

ドイツ語: Jener Wintermorgen war kalt, aber sonnig.

ポーランド語: Ten zimowy poranek był chlodny lecz sloneczny.

日本語: あの冬の朝は寒かったが、日が照っていた。

イディッシュ語: Di mayse iz an emese.

ドイツ語: Die Geschichte ist wahr.

ドイツ語: Es ist eine wahre Geschichte.

ポーランド語: Ta historia jest prawdziwa.

日本語: その話は本当だ。

### 形容詞の名詞的用法

形容詞の名詞的用法は「定冠詞／不定冠詞＋形容詞＋名詞」の組み合わせの場合に名詞の部分を取って（省略して）、形容詞に名詞機能を持たせるものである。これはドイツ語も同じである。

性・数に応じて形容詞の部分を変化させればよい。

a gelernter ある学者、der gelernter その学者

### 形容詞の比較・最高級

#### 比較級

ドイツ語では比較をあらわすには普通「比較級＋als（この後ろは主格）」を用いる。一方、イディッシュ語には als に相当する部分に vi（この後ろは主格）あるいは fun（この後ろは与格）を用いる。スラブ語にもこのような用法があ

る。たとえばポーランド語では「比較級+niż (この後ろは主格)」を用いることもできるし (Brat jest starszy niż siostra. 「弟は妹より年上だ。)、 「比較級+od (この後ろは生格)」を用いることもできる (Brat jest starszy od siostry.)。従って od に相当する fun を用いるイディッシュ語の用法はスラブ語式であると言えよう。

イ：Er iz greser fun dir.

ド：Er ist größer als du.

ポ：On jest wiekszy od ciebie.

日：彼は君より大きい。

イ：Sera iz geven mit finf yor elter fun im.

ド：Sara war fünf Jahre älter als er.

ポ：Sara jest starsza opiec lat od niego.

日：サラは彼より五歳年上だ。

### 最高級

イ：Er iz geven der bester kinder-dokter in shtot.

ド：Er war der beste Kinderarzt in der Stadt.

ポ：Był najlepszym lekarzem chorób dziecięcych w mieście.

日：彼は町一番の小児科医だった。

イ：Di shenste un gliklikhste tsayt in mayn lebn zaynen geven di vokhn un teg mayne in Moskve.

ド：Die schönste und glücklichste Zeit in meinem Leben waren die Wochen und Tage in Moskau.



ポ：Najlepszymi chwilami mojego życia były dni i tygodnie w Moskwie.

日：私の人生で最も美しく、最も幸せな時期はモスクワでの日々だった。

イ：der same brilyanter kop

ド：der brilliantester Kopf

ポ：same otwarta głowa

日：最も冴えた頭脳

イ：dos same komplitsirte

ド：das komplizierste

ポ：samo skomplikowano

日：最も複雑なこと

これらの文、あるいは句の中の same はロシア語の самый になったものであろう。ただこのような表現は比較的遅くイディッシュ語に入って来たものではなかろうか。なぜならユダヤ人がロシア人と接するのは18世紀の末以降だからである。

— 続 く —